

【稲城市】

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1 1 人 1 台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

稲城市では、タブレット端末機器を活用し、子どもたちの資質・能力が一層確実に育成できる環境を実現し、多様な子どもたち一人ひとりに対して個別最適化された学習指導の一層の充実や「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改革を進めています。

また、稲城市では、令和2年度にタブレット活用のガイドブック「I」を作成し、3つの「I(アイ)」をキーワードに全学年・全教科の指導方針を定め、タブレットを活用しています。

1つめの「I」…ICT

学校・家庭において、ICT(デジタル教材やアプリケーション)を最大限活用することで、これからの学びを推進します。

2つめの「I」…Inagi

稲城市や各市立小中学校の特色を生かしたオリジナルな学びを充実させます。

3つめの「I」…Interactive

インタラクティブな学び(協働学習・双方向)を生み出します。

2 GIGA第1期の総括

稲城市においては、全ての学校の児童生徒及び教員にセルラーモデルの端末を配備し、モバイル通信を基盤としたICT利活用を進め、個別最適な学び・協働的な学びの充実に向けて取り組んできました。その成果として、児童生徒がタブレット端末を活用して主体的に学習内容の収集を行う、アプリケーション等の活用による学習内容のまとめを行う、タブレット端末を家庭に持ち帰り学習の振り返りに活用する、学習成果について個別に教員とやり取りを行う等の個別最適な学びや、アプリケーション等の活用により自身の考えを可視化・共有し、話し合い等を行う協働的な学びを実現することができました。

また、各校のICT担当教員によるタブレット活用推進委員会にて、授業等での端末利活用について情報共有や意見交換を行ってきた他、デジタル利活用支援員が各校を巡回し教員の支援を行いました。

課題としては、教員のICTへの理解度により活用状況に差が生じていることが挙げられています。各校のICT担当教員・タブレット活用推進委員会・デジタル利活用支援員等を活用して教員間のICTに関する個人差を是正し、より一層の活用を進めていく必要があります。

3 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利活用の方策として、以下の3点を実施することで活用を促進し、1人1台端末の環境を引き続き維持していきます。

(1)1人1台端末の積極的活用

- ・タブレット活用推進委員会での端末利活用についての情報共有や意見交換を積極的に行います。
- ・デジタル利活用支援員を委託事業により配置・活用し、各校で生じた課題を解決するとともに、得られた知見を共有し、全校に展開します。

(2)個別最適・協働的な学びの充実

- ・クラウドツールや学習ツール等のより一層の活用を通じて、GIGA第1期で実現した児童生徒がタブレット端末を活用して主体的に学習内容の収集を行う、アプリケーション等の活用による学習内容のまとめを行う、タブレット端末を家庭に持ち帰り学習の振り返りに活用する、学習成果について個別に教員とやり取りを行う等の個別最適な学びや、アプリケーション等の活用により自身の考えを可視化・共有し、話し合い等を行う協働的な学びを引き続き推進していきます。
- ・モバイル通信を生かした持ち帰り学習や及び校外学習での端末利用を継続します。

(3)学びの保障

- ・各校に整備済みのオンライン配信用の端末を活用し、児童・生徒の実態に応じオンライン授業を行い、端末を活用した学習機会を提供していきます。
- ・児童・生徒の実態に応じて、読み上げ機能のあるデジター教科書や翻訳ツールの利用等により、端末を活用した支援を提供していきます。
- ・希望する児童生徒への端末を活用した教育相談について、各種活用事例等の確認を行うなど研究していきます。